

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

平成30年戊戌 住職年頭挨拶



戊戌

謹賀新年

赤い花は赤く
白い花は白く、輝く
ちがいがあから、美しい
〈早島大英〉



住職（昨秋修行授戒会より）

平成30年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- 1/10 年賀寺例
- 2/3 大節分会
- 2/15 釈尊涅槃会
- 3/11 大般若会大施食会法要
- 3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 7/13~7/16 新暦盂蘭盆会
京浜地区檀信徒棚経
- 7月下旬(一泊二日)
第37回子供禪の集い
- 8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- 10月 宗務所檀信徒研修旅行
- 12/8 釈尊成道会
- 12/10 歳暮寺例
- 12/31 除夜会

※毎週水曜日 定例坐禅会
 ※隔週水曜日 梅花講・華道教室
 ※群馬県宗務所執務日
 月・水・金曜日

曹洞宗には「ともに願い」「ともに寄り添い」「ともに歩む」の三つの誓願があります。

私達は一人ではない。ともに一生懸命に生きている仲間がいる。そして、その後で見守る「仏」がいる。お互いの生き方と立場を認め合い尊重し合う世の中でありたいと願っております。ご先祖様や親が生きる手本です。そこから何を学び、何を受け継いでいくのか、それを世間に流されず、もう一度立ち止まってゆっくりと考えたいものです。手を合わせ、おがむ心は、優しく温かい。

総代人世話人はじめ檀信徒皆様のご協力に感謝いたし、本年の万福多幸を心より祈念申し上げます。合掌

平成三十年 年 回 表

一周忌	平成二十九年	二十三回忌	平成八年
三回忌	平成二十八年	二十七回忌	平成四年
七回忌	平成二十四年	三十三回忌	昭和六十一年
十三回忌	平成十八年	五十回忌	昭和四十四年
十七回忌	平成十四年	百回忌	大正八年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
 ※2 該当檀信徒各家には、封書にて通知が届きます。
 (但し、五十回忌・百回忌を除く)

曹洞宗群馬県宗務所主催 授戒会圓成

住職が所長を勤めます曹洞宗群馬県宗務所主催にて、昨秋10月31日（月）～11月5日（日）に掛けて、授戒会が修行されました。同法会は、宗務所梅花部60周年及び群馬県曹洞宗青年会55周年を記念し、梅花部・青年会はもとより多くの関係各位ご協力のもと、およそ三年間に亘り多くの会議を経て慎重審議をし、企画を練り、準備に準備を重ねた上で、執り行われました。

授戒会は、曹洞宗門最大の法要であり、約一週間に亘りつとめられます。群馬県では、6年前に青年会の50周年を記念し、大本山總持寺貫首江川辰三大禪師猊下戒師のもと、当山仁叟寺にて行われて以来となる大法要でした。今回の授戒会は、所長である仁叟寺住職が戒師をつとめ、教授師をつとめる橋本梅花部長のご自坊である桐生市大雄院様を戒場に、170名ほどの戒弟を迎え、県内各地より随喜の和尚様方50名以上が集い、無事圓成いたしました。



↑二回に分けて行った集合写真撮影

ほか、引請師を太田市金龍寺青木住職、説戒師を下仁田町長楽寺峯岸住職、総都管を總和会長の前橋市長昌寺栗木住職、室侍長を宗務所副所長の安中市長源寺新井住職、直壇長を有道会長の沼田市舒林寺天野住職がそれぞれおつとめになられ、宗務所・梅花部・青年会の宗侶が多数集い、所会・布教部・寺族会・婦人会のご協力も得て、戒会は無事莊嚴裏に大圓成いたしました。

梅花部60周年という節目の年であり、法要は梅花流詠讚歌がお唱えされ、梅花講習も行われました。当寺梅花講の皆様はじめ、この度ご参加くださいました皆様、誠に有難うございました。



↑宗務所梅花部60周年記念祝祷法要
↓教授師/大雄院橋本住職(右)、戒師/当山住職、引請師/金龍寺青木住職(左)



吉井町仏教会創立60周年記念式典 圓成



↑ 式典導師を勤める吉井町仏教会長の住職

昨秋10月29日（日）、吉井町仏教会創立60周年記念式典が吉井文化会館にて盛会裏に行われました。同仏教会は、吉井町仏教寺院22箇寺が所属し、昭和33年に渡辺石橋仁叟寺29世住職によって創立され、現在当住職が会長をつとめております。

昨年が節目となる60周年の年であり、記念式典を吉井文化会館にて行いました。式典では報恩諷経のほか、熊本地震一周忌・東日本大震災七回忌・阪神淡路大震災二十三回忌・日航機墜落事故三十三回忌の供養法要が会長導師のもと修行されました。来賓として群馬県仏教連合会長都築師始め高崎・藤岡・富岡甘楽妙義地区の仏教会長各師がご臨席下さいました。

また、清興には地元高崎市出身の新進気鋭の女流落語家である林家つる子さんによる落語が披露され、参加された多くの方々の笑いが絶えない式典となりました。当日は季節外れの台風22号により、生憎の天候でありましたが、参加者関係者300人ほどが集い、会員寺院、吉井JAアシストホールほか多くのご協力を賜り、式典は盛会裏に圓成いたしました。



↑ 落語家・林家つる子さんによる清興

高崎市指定避難所・仁叟寺にて地区避難訓練



↑ 本堂にて挨拶・講話

8月20日、高崎市吉井町第13区の自主防災組織が中心となりまして、高崎市指定避難所であります当山にて地域防災避難訓練を実施いたしました。第13区のほか地元多胡小校区の皆様、消防団、行政及び社協、伊藤園及び第一テクノ、仁叟寺総代役員の皆様150名程が集い、訓練を実施しました。



↑ 訓練風景



関口正樹第13区長、住職の挨拶に続き、副住職によるボランティアなどの講話。被災地での話や防災等についてお話しいたしました。引き続き、第一テクノ向井敏昭様より発電装置についての説明、伊藤園様より災害時対応自動販売機の説明をそれぞれデモンストレーションを交え行っていただきました。更に、地元消防団様及び消防署様より消火器を使った消火訓練と仁叟寺にも設置しておりますAED装置の訓練を行いました。最後に仁叟寺に常備しております簡易トイレの説明を行い、その後、東日本大震災被災地にて振る舞った事のある食事とカキ氷を参加者皆さんで召し上がっていただきました。

天候も雨に降られることなく、盛会に地域の避難訓練が多くの組織団体企業のご協力のもと、今回もつとめることが出来ましたこと、感謝しております。

天候も雨に降られることなく、盛会に地域の避難訓練が多くの組織団体企業のご協力のもと、今回もつとめることが出来ましたこと、感謝しております。

日航機墜落事故三十三回忌慰霊法要厳修



↑事故当時霊安所となった藤岡市光徳寺様にて、宗務所長仁叟寺住職導師のもと三十三回忌法要

7月20日、藤岡市光徳寺様にて修行されました日航機墜落事故物故者三十三回忌慰霊法要。同供養実施委員会の代表である曹洞宗群馬県宗務所長の当山住職を導師に、宗派を超え、また関東一円からご参集いただいた僧侶と共に勤めをさせていただきました。

法要後は、導師及び来賓を代表し織田澤俊幸群馬県議会議長より追悼文が奉呈され、その後同事故遺族で作る「8・12連絡会」事務局長であり、著作講演活動を続けて来られた美谷島邦子様による講演会も開催されました。心に沁みる講演でありました。遺族は勿論、同事故に関わった行政、ボランティア、歯科医師会など凡そ200名が参列いたしました。

終了後に、群馬県曹洞宗青年会が中心となり関東一円より参加されました青年宗侶約50名が、事故現場の御巣鷹山に慰霊登山をいたしました。登山に先立ち、上野村慰霊の園にて慰霊法要を行い、その後、御巣鷹山登山口に移動。40分ほど登り、事故現場である昇魂の碑前にて、篠原暁信群馬県曹洞宗青年会会長導師のもと、慰霊法要を勤めました。法要では、亡くなられた520名のご芳名を読み込みました。

深い緑の山中に響く読経と鐘の音。法要後に会長挨拶、管理人黒澤完一様の説明も地元として慰霊を続けていく決意と覚悟が伺えました。また同供養法要は、全国紙の新聞各紙は勿論、NHKやTBSのテレビニュースでも取り上げられ、放送がなされました。

三十三回忌に当たり改めてご冥福を祈り、更なる空の、公共交通機関の安全を皆で祈念いたしました。

→上毛新聞会面記事(八月二十一日付)

現場で法要 風化防止へ 遺族ら決意

520人が亡くなった1985年の日航ジャンボ機墜落事故が、再び注目を集めるのを前に、三十三回忌の法要(上野村)や光徳寺(藤岡市)で営まれた。三十三回忌は法要で「思い出」とされるが、参列した約150人の遺族や関係者は「次世代に引き継ぐ」の事故を語り継ぐ決意を新たにした。

21日、上野村の御巣鷹の尾根

上野村の御巣鷹の尾根。21日、上野村の御巣鷹の尾根にて、三十三回忌慰霊法要が行われた。遺族ら約150人が参列し、事故を語り継ぐ決意を新たにした。

入院中、保護者が虐待 全国展開

児童相談所が、入院中の児童を虐待していたと認定し、保護者を懲罰する方針を明らかにした。虐待は、児童相談所の職員が、児童を虐待していたと認定し、保護者を懲罰する方針を明らかにした。

交際相手の娘に熱湯 起訴内容を一部否認

交際相手の娘に熱湯を注ぎつけたとして、起訴内容を一部否認した。交際相手の娘に熱湯を注ぎつけたとして、起訴内容を一部否認した。

黄色く広がる ノリコリスケ

黄色く広がるノリコリスケ。上野村の御巣鷹の尾根にて、三十三回忌慰霊法要が行われた。黄色く広がるノリコリスケが、事故現場の風景を彩っていた。



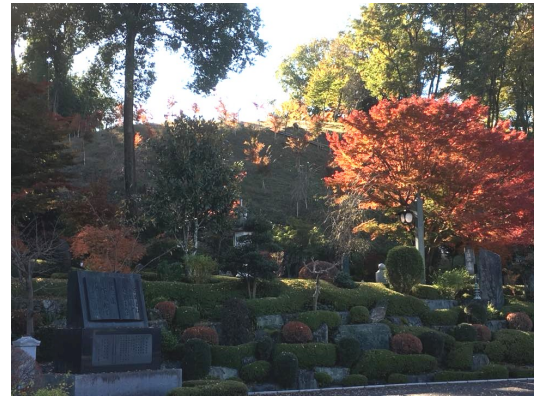
↑上野村・慰霊の園にて慰霊供養法要 ↓事故現場・御巣鷹山尾根・昇魂の碑前にて慰霊供養法要(関東一円より集った青年僧侶凡そ50名による諷経)



高崎市里山元気再生事業報告



← 奉仕作業役員集合写真



↑ 色づいてきた植樹もみじ
(昨年秋11月撮影)

仁叟寺の竹林を整備し、地元と檀信徒の方々の協力をもって行っております高崎市の補助事業、里山元気再生事業の継続が昨年も決まり、本年で6年目となりました。伐採した竹林は既に7,000本以上。その跡地には、モミジやサクラおよそ300株を植樹いたしました。なお、作業に当たっては、特に関口正樹区長さん、矢島巖さん、金井正男さん、加藤壯土さん、金田一男さんに一方ならぬご尽力をいただいております。

仁叟寺総代会役員会等に併せ、昨年も7月～9月の第一日曜日の計3回に亘り、おてんま（吉井地域の方言、共同作業や普請の意）を行いました。植樹した木々が、しっかりと根付くよう、下草刈りや篠竹刈り等の作業を総代人さん、役員さん、地元の方々と共に、汗を流しました。

当地には、歴史を物語る古墳も多数遺されており、また山内全景や上毛三山、吉井市街等が見渡せる風光明媚な場所。里山再生に相応しい「もみじ山歴史公園」に向けた整備が、着々と進められております。

自らを洲とする ～東日本大震災被災地支援～



← 贈呈の様子（曹洞宗震災復興支援分室）
ポランティア作業風景（南相馬市小高）



去る11月14～15日に掛けて、被災地域である福島県、宮城県、岩手県東北三県に伺って参りました。群馬県曹洞宗青年会創立55周年記念で昨春無事圓成いたしました「現代名僧墨蹟展」の収益金を被災地域の教育関連の団体に届けるべく青年会14名にて各県各班に分かれ贈呈式を行って参りました。曹洞宗門でも復興に力を入れており、今回の贈呈に当たって、福島県に所在する曹洞宗震災復興支援分室久間室長様に諸々お世話になりました。

贈呈式後に副住職ほか有志9名と福島県曹洞宗青年会の瀧澤会長ほか有志15名、合計24名で、福島県被災地域である南相馬市小高地区にて奉仕活動をさせていただきました。

今回も南相馬市の新祥寺野田精頭副住職に窓口になっていただき、作業に当たって準備を行っていただきました。有難うございました。

此の度は、南相馬市小高区の竹林伐採作業等を

福島県群馬県両県青年会員が力を合わせ行い、皆と共に汗を流しました。

早いもので昨年3月11日で、同震災7回忌でした。出来る人が出来る時に出来る事を行う。引き続き、これからも協力をさせていただければと考えております。

総代長新年挨拶

新年明けましておめでとうございます

新しい年を迎え、おめでとうございます。

昨年は、仁叟寺の行事について、皆様のご支援ご協力を賜り、感謝申し上げます。特に、仁叟寺の役員会議は、常に90%以上の参加をいただき、他の寺院から驚かれています。

現在、仁叟寺の住職は群馬県宗務所長を務めておりますので、必然的に私が群馬県宗務所の護持会長となります。任期（4年）は、残りあと1年となりました。住職に恥をかかさぬよう、努めていきたいと思っております。

昨年の11月は、授戒会（桐生市大雄院様）と檀信徒研修旅行（台湾）に参加してきました。

授戒会では、170名ほどが戒弟として参列し、仁叟寺住職が戒師様をつとめ、御血脈を授けていただきました。11月1日～5日まで行われ、私は初めての行事で3日～4日の2日間参加してきました。授戒会とは、人生を送る道しるべとなる「戒」を授かり、仏の道を歩む生活習慣を身に着ける法会です。6年前に仁叟寺にて修行されて以来の大きな法要で、清らかな時間を過ごすことが出来ました。

※矢島正義総代長には、昨年秋の宗務所研修旅行についての感想を書いて頂きました。お陰様で仁叟寺より10名程のご参加がありました。本年も研修旅行が秋に行われます。是非、奮ってのご参加をお願いいたします。

筆者・矢島正義総代長



研修旅行は、78名の参加でした。今回は初めての海外研修で台湾に行ってきました。特に蒋介石総統を讃える中正紀念堂での衛兵交代式は必見でした。曹洞宗両大本山である永平寺様・總持寺様の別院である東和禅寺様では、般若心経を全員で唱えお参りをいたしました。ほか、現在伊香保に建設中の仏光山法水寺様の本寺である台北研修道場にも伺いました。巨大な寺院で、日本との違いに驚きました。檀信徒研修旅行は、本年も秋に行われます。普段は伺えない場所を訪ね、素晴らしい研修が出来る旅行であり、是非、皆様の奮ってのご参加をお願い申し上げます。

本年も宜しくお願いいたします。

仁叟寺総代人一同

矢島正義	新井徳衛	篠崎和男
森久	堀越兼一	神保堯男
酒井範明	神保武長	向井敏昭

檀信徒の皆様へ

住所等の変更がありましたら、必ず菩提寺までご連絡を下さいますよう、お願いいたします。

行雲流水（編集後記）

新年明けまして、おめでとうございます。

昨年も多くの行事があり、寺報も手前味噌ながら充実した内容で、紹介することの出来なかった行事等も多々ございました。当寺報で寺院が行っている事の一端がご理解いただければ幸いです。

また、当方現在仁叟寺副住職のほか仁叟寺末寺である吉井町多胡の龍源寺30世住職をつ

編集人 副住職 渡辺龍道

とめております。十数年慎重審議をいたしました本堂再建が、昨年より上州を代表する堂宮入秀宮大工施工により愈々始まりました。昨秋に上棟会法要も終了いたしました。多くの方々のご協力を以て同事業が進んでおりますこと、感謝しております。合掌（龍）



↑上棟会法要風景